

発行者 浜松言友会 浜松市勤労青少年福祉関係団体 認定
NPO法人全国言友会連絡協議会 加盟

会長 谷 哲夫

編集者 菅沼 覚

ホームページ <http://hamamatsugenyuukai.web.fc2.com/>

⇒「浜松言友会」で検索

浜松例会 報告

日時：平成29年4月23日(日)14時～16時45分

場所：アイミティ浜松(浜松市立勤労青年ホーム) 第1集会室

司会：IH(兼勉強会)

参加人数：10名(AF、YN、NH、YA、SY、NK、IH、SS)

初参加のSM、SKさん

1. 初参加者の自己紹介、参加者意見等(抜粋)

- 浜松市内の小学校で幼児対象の「ことばの教室」を担当している。5年任期の3年目。吃音の子どもと出会う機会は少ない。親の心配とは裏腹に、当事者である子どもは吃音をあまり気にしていない。心配している親に対してどうやってアプローチをしていったらいいだろうかとこの2年間、菊池良和先生の本や伊藤伸二先生の講演会等を通して勉強してきた。3年目に入り、もっと研鑽を積みたいと願っている。

吃音は親の愛情不足が原因ではないことを親はもとより、周囲の人も知ることが大切だと思う。親子の絆をしっかり保ち、吃っても話ができる家庭環境を整えていけるような場を提供したい。

「ことばの教室」では、構音障害(正しい発音ができない)の子どもへの発音指導も行っている。

毎年の「青少年のための吃音講座」は続けて出席している。今後は浜松言友会に参加することにより、多くの情報や気付きを得たいと願っている。

出身地である神戸市は、吃音者による交わりが活発で、親同士、子ども同士が生き生きと活動していた。浜松市でも、このような交わりが何かのきっかけで生まれていくようなヒントを得たい。

- 双子の娘(小学校6年生)の妹のほうが吃音である。娘は小さい頃からいつも仲間の仲と一緒に囲まれていた。親としても、娘が吃音のために孤立しているという意識は持っていなかったが、最近、1人で本を読んでいる姿が多くなったので、気になっている。妻とは、娘が吃音ながらも話すことは全部聞いてあげようと心掛けているが、はたしてそれが正しいやり方なのかもわからない。自分自身が吃音者ではないので、当事者の気持ちがわからない。浜松言友会に参加することにより、少しでも娘の気持ちを理解できたらと願っている。

→ 《参加者より》

- 自分の経験から、「自信のある親の姿を見せ、不安を与える背中を絶対に見せてはいけない」と心掛けてきた。
- 浜松市内の通級指導教室の詳細な情報などが提供でき、又、いろいろ相談に乗ることができた。
- 自分の吃音との付き合いを振り返ってみて、吃音を「治した」ではなく、自分は「克服した」という表現を使いたい。



磐田 京見塚公園にて

- この場に来れる人はまだいい。一人で悩んでいる吃音者の悩みの克服のために、どうアプローチしたらいいのだろうか？

2. 勉強会

テーマ：引き続き「吃音者宣言」(4ページ参照)について考えてみよう。

- 若い吃音者は、宣言文を文字どおり読めば、躓いてしまうかもしれない。しかし「吃音者宣言」は、吃音を治そうと本気になって努力してきた経験があったからこそ生まれた宣言であることは間違いない。やはり解説が必要であると思う。
- 「全言連ニュース2017年1・2月号」のM理事長の巻頭言にあるように、「吃音者宣言」から約40年経った現在は、2回目のパラダイムシフト(変化)の時期にあるのではないだろうか。
- 100人いれば100様のある症状を「吃音」という一つの言葉によって定義してしまうことは、各自の問題や改善方法を見えなくしてしまう。まさに「言葉」は人間特有の便利な道具だが、反面、個々の本質を覆い隠してしまうデメリットがあることを忘れてはいけないと思う。「治る・治らない」という白黒しかない世界ではなく、それぞれにとって「改善」の色はきっとあると思う。
- 「治した」ではなく、自分は「克服してきた」という表現を使いたい。
- 吃音改善のための訓練の場を強制的につくる必要があるのではないか？
- 吃音を「障害」と捉えず、従って「治すための訓練」も拒否し、レジリエンス(生き抜く力・・・)を培っていくことを主張する人々もいる。具体的には、吃音を持ったままで、言葉を丁寧・大切に、人(社会)と接することを心掛けていくことが大切だ。
 - 《参加者より》
 - 「吃音を持ったままでも社会と関わりを持って生き、たとえ吃音ゆえに躓いたり、挫折したとしても、『障害』という名前に逃げ込まずに、全ては自己責任である覚悟で生きていく心構えが必要」と言ってしまうのは、あえて困難なことにチャレンジするため社会に出て行く若い吃音者にとっては、あまりにも酷ではないか？それが正論であったとしても、吃音当事者側からのフォローや、社会の吃音への理解への啓発活動までも否定されてはならないと思う。
- 浜松言友会の存在そのものが、様々な吃音者にとって拠り所となるような幅のある活動を、自信を持って行う必要があると思う。
- 今回の議論を踏まえ、浜松言友会のチラシ「吃音に負けないで 明るく！」(4ページ参照)の文言も見直すことも必要だと思う。→ 「浜松言友会」のホームページにも掲載されています。

<http://hamamatsugenyuukai.web.fc2.com/hamagenkituontirasi2016.pdf>

浜松臨時例会 報告

日時：平成29年4月30日(日)14時~16時45分
場所：アイミティ浜松(浜松市立勤労青年ホーム) 茶室
司会：TT
参加人数：7名(TT、AF、YN、SY、NK、IH、SS)



磐田 熊野の長藤

1. 「第5回青少年のための吃音講座」について

① 実施日及び会場(案)

- | | | |
|-------------|---------------|----------------------------|
| 浜松会場 | ・ 期日：8月6日(日) | ・ 会場：アイミティ浜松、又は浜松市福祉交流センター |
| 静岡会場 | ・ 期日：10月1日(日) | ・ 会場：静岡県総合社会福祉会館スズウエル |

② 助成金申請

北川奨励賞に応募したが落選。現在、県社会福祉協議会ふれあい基金に申請中

なお、平成30年度分としては、同じような内容で行うものとし静岡県共同募金会へ5月に申請予定

③ 内容について(案) 昨年と同内容とする。

概要 ・聴覚遅延フィードバック法(DAF)等の体験授業

・体験発表(発表者を事務局から個別に打診する)

・専門家による講話(例年の講話者に加え、昨年度大学生だった会員による卒業研究を踏まえた発表を行ってもらおう(卒業生へはT会長より候補者へ打診する))

・グループ別意見交換(時間をもう少し長く確保したほうがよいとの意見あり)

・吃音相談(希望者)

※ 次回例会(5月21日)に、上記案を踏まえて協議を行う。

2. 「吃音者宣言」について

「吃音者宣言」とチラシは 4ページ参照

・ 「吃音者宣言」及び浜松言友会の案内チラシの文言の朗読後、各自が感想・意見交換を行った。

「問題ない」という意見もあった反面、浜松言友会案内チラシ文面の言い回しを見直す必要があるとの意見もあった。

このため、各自が浜松言友会案内チラシ文面の見直し案を考え、次回例会(5月21日)に提案を行うこととなった

次回 浜松例会 案内

日 時：平成29年5月21日(日) 14時～16時45分

場 所：アイミティ浜松(浜松市立勤労青少年ホーム)
第1集会室

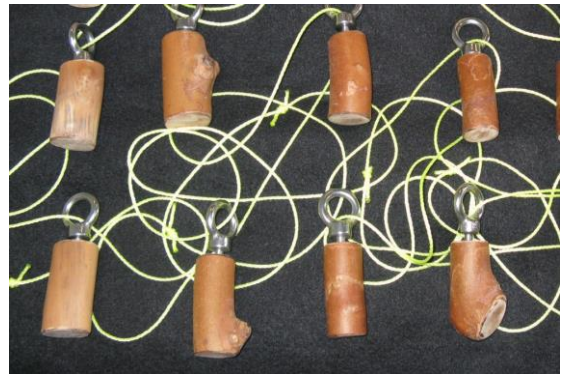
司 会：NK(兼テーマ内容担当)

内 容：吃音相談、近況報告など

「第5回青少年のための吃音講座」について

「浜松言友会案内チラシの文面の見直しについて」

その他



M I 作 鳥の鳴き声「バードコール」

第3回 静岡例会 案内

日 時：平成29年5月28日(日) 14時～16時45分

場 所：静岡市葵生涯学習センター(アイセル21) 4階 第44集会室

内 容：吃音相談、勉強会、その他

※ 例会の内容や取り上げてほしいことなど、ご意見がありましたら下記事務局までお願いします。

※ 例会の内容は参加状況等により、変更となる場合があります。

その他 お知らせなど

・ 年会費 4月納入者 1,000～3,000円 FS、TS、SM、YA 以上4名、

平成29年度(1～4月)累計 正会員 18名、賛助会員 10名。

・ 補正予算 平成29年度収入の「助成金」、支出の「活動費」をともに、50,000円に増額しました。

・ 各言友会の会報は、事務局が預かっています。必要な方は事務局までお願いします。

・ 30日の臨時例会の後1時間ほど、6名でコーヒーなど飲みながら雑談しました。

・ 吃音(どもること)の集い in とやま 定員50名 詳細は全言連、又は、浜松言友会事務局へ

期日：平成29年6月11日(日) 13時受付

会場：富山県 高岡市生涯学習センター

内容：基調講演「吃音の基礎知識と対応」(国)金沢大学教授 小林宏明氏 座談会

・ 日本吃音・流暢性障害学会 第5回大会

期日：平成29年8月19日(土)～20日(日)

会場：岐阜市 長良川国際会議場

- 第31回言友会中部大会
期日：平成29年10月28日（土）～29日（日）
会場：岐阜県高山市 「お宿・信田」
- 第51回言友会全国大会（ワークショップ）
期日：平成29年11月3日（金・祝）～5日（日）
会場：福岡市 志賀島国民休暇村



掛川 高天神城跡にて

吃音者宣言

私たちは、長い間、どもりを隠し続けてきた。「どもりは悪いもの、劣ったもの」という社会通念の中で、どもりを嘆き、恐れ、人にどもりであることを知られたくない一心で口を開くことを避けてきた。

「どもりは努力すれば治るもの、治すべきもの」と考えられ、「どもらずに話したい」という、吃音者の切実な願いの中で、ある人は職を捨て、生活を犠牲にしてまでさまざまな治すところみに人生をかけた。

しかし、どもりを治そうとする努力は、古今東西の治療家・研究者・教育者などの協力にもかかわらず、充分にむくわれることはなかった。それどころか自らのことばに嫌悪し、自らの存在への不信を生み、深い悩みの淵へと落ちこんでいった。また、いつか治るという期待と、どもりさえ治ればすべてが解決するという自分自身の甘えから、私たちは人生の出発（たびだち）を遅らせてきた。

私たちは知っている。どもりを治すことに執着するあまり悩みを深めている吃音者がいることを。その一方、どもりながら明るく前向きに生きている吃音者も多くいる事実を。

そして、言友会10年の活動の中からも、明るくよりよく生きる吃音者は育ってきた。全国の仲間たち、どもりだからと自分をさげすむことはやめよう。どもりが治ってからの人生を夢みるより、人としての責務を怠っている自分を恥じよう。そして、どもりだからと自分の可能性を閉ざしている硬い殻を打ち破ろう。

その第一歩として、私たちはまず自ら吃音者であることを、また、どもりを持ったままの生き方を確立することを、社会にも自らにも宣言することを決意した。どもりで悩んできた私たちは、人に受け入れられないことのつらさを知っている。すべての人が尊重され、個性と能力を発揮して生きることのできる社会の実現こそ私たちの願いである。そして私たちはこれまでの苦しみを忘れ去ることなく、よりよい社会を実現するために生かしていきたい。

吃音者宣言、それは、どもりながらもたくましく生き、全ての人びとと連帯していこうという私たち吃音者の叫びであり、願いであり、自らへの決意である。

私たちは今こそ、私たちが吃音者であることをここに宣言する。

全国言友会連絡協議会

昭和51年5月1日 言友会創立10周年記念大会にて採択

昭和51年5月、言友会創立10周年記念大会は、「吃音者宣言」を採択。どもりを治すことに執着してきたこれまでの歩みを転換させて「吃りながら明るく前向きに生きる」決意を表明した。どもりを悪いもの劣ったものとする一般通念を成人吃音者の生き方を通して変えようとしている。

浜松言友会の「吃音チラシ」冒頭文

吃音は治りにくいといわれています。人を避け、吃音を治したい一心で多くを犠牲にし、人生を賭けたが治らない。吃音は治りにくいのが現実のようです。

その一方で、吃音者でありながら、明るく積極的に生きている吃音者も多いのです。多くを犠牲にするより吃音を受け入れ、吃音を持ったままでも明るく生きようとしているのです。私たちもそう考え、できる限り皆さんへのお手伝いをしようというのが、浜松言友会です。

自分で明るく生きられる人はいいのです。悩んでいる人は一緒に考えましょう。そして、言友会活動に限らず、小学生ならお手伝い、習い事など、大きくなれば、部活動、生徒会、ボランティア団体、仕事などいろいろな活動を通して自分を磨き、吃音にとらわれなくなり(吃音に対する考えを変え)、明るく積極的に生きることで、吃音の悩みが薄れていくと考えます。

～編集者より～

ここ数回の例会では、「吃音者宣言」を題材として、様々な感想・意見交換が行われています。

このような機会を通して、今の時代、そして静岡県在住の吃音者のニーズに応えることができるよう、浜松言友会のあり方や方向を引き続き考えていきたいと思っております。

会報をご覧になった皆さんの、ご意見などを是非お聞かせいただければ幸いです。

事務局 朝稲福司 〒438-0818 磐田市下万能 357
TEL & Fax 0538-32-5682 携 080-1606-5162
Eメール asaine@msb.biglobe.ne.jp